琴の海

https://hngc-dosokai.jimdo.com/

第２３号
発　行　放送大学長崎同窓会
編　集　会報編集委員会
発行責任者　高　潮　　昇
2023年5月11日発行

目　　次

■ 表紙（西九州新幹線長崎駅）、目次　・・・・　1
■ 同窓会会長あいさつ（高潮　昇）　・・・・　2
■ 長崎学習センター所長あいさつ（山下敬彦）　・・・・　3
■ 三回の文化祭を振り返る（峰　昭子）　・・・・　4
■ パネルディスカッションに参加して（土橋晋作）　・・・・　5
■ 令和４年度活動紹介　・・・・　6～10
　・第３回文化祭
　・講演＆ミニライブ（堀内伊吹教授）
■ サークル活動紹介（俳句クラブ）　・・・・　11
■ 総会資料　・・・・　12～13
■ 新会員の紹介・おたより　・・・・　14～16
■ 歴代の長崎学習センター、編集後記　・・・・　17

同窓会会長 あいさつ

社会変革を先取り、同窓会活動も新しい時代へ

長崎同窓会
会長　高潮　昇

新型コロナウイルスの感染拡大から丸 3 年が経過。長崎大学熱帯医学研究所の山本太郎教授は、私どもの同窓会主催の講演会で「コロナが終息するまでには、発生から 3 年かかる」。この言葉が私の脳裏に今でも残っており、膨大な時間を要して「ウイズコロナ」という形で収束することになります。新型コロナウイルスの感染症法上の分類は、今年 5 月から 5 類（季節性インフルエンザと同等）に引き下げられます。サッカーや野球観戦は「声出し応援」も可能となり、観客の応援が選手を後押し大きな力となっております。非日常から日常に戻っていることを実感する今日この頃です。

一方、同窓会の行事開催は、企画段階で対面、リモート（Zoom）またはハイブリッド（対面とリモートの併用）にも対応できるよう時間をかけて準備します。センター側ホストの技術習得から始まり、ポスター作成、案内状の郵送、メールで参加者へ資料等を送付する一連の流れを同窓会役員で分担します。今までの 2 倍も 3 倍もの時間と労力を要します。このようにして、コロナ禍の 3 年間でも講演会や論文発表会等を計画どおり開催することができました。

同窓会のコンセプトは、「同窓会は、卒業生だけでなく、卒業生も現役学生も含めた、放送大学に所縁のある方すべての方々のための同窓会でありたいと願っております」。コロナ禍でも社会変革を先取りし、同窓会活動をとおして同窓会会員や在学生の支援活動、生涯学習支援活動等を行うことです。

コロナ禍でも、リモート開催の技術習得の蓄積等で大きな成果をあげたのが「第 3 回文化祭」（開催日令和 4 年 10 月 30 日（日））でした。ハイブリット（対面とリモートの併用）で開催。文化祭は、長崎学習センター開設 30 周年記念行事の一環として、同窓会や各サークルの代表者で実行委員会を組織し 11 回の会議を重ねました。開催日当日は現役学生、卒業生をはじめ多くの一般市民の方に参加いただき大盛況でした。離島のみなさんにもリモート（ZOOM）で参加いただきました。文化祭をハイブリット（対面とリモートの併用）で開催したのは長崎学習センターが全国で初めてだそうです。

コロナ禍で社会変革を先取りし、新しい技術を習得したことで同窓会活動も新しい時代を迎えます。「ウイズコロナの時代」になれば，学習センターの賑わいを通して同窓会やサークル活動が活発になることも期待できます。みなさんも同窓会やサークル活動を始めましょう。放送大学で楽しみながら学びましょう。さあ！新しい時代の幕開けです。

長崎学習センター所長 あいさつ

新たなステージを迎える新型コロナ感染症と向き合う

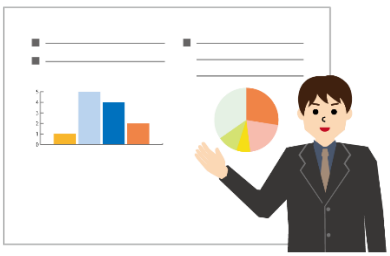
長崎学習センター
所長　山下敬彦

放送大学長崎学習センター同窓会におかれましては、ますますご隆盛のこととお喜び申し上げます。また、昨年度は放送大学長崎学習センターの設置 30 周年記念事業として、当学習センターと同窓会及びサークル団体が協同して文化祭を実施し、その中で同窓会には中心的な役割を担っていただきました。特に高潮会長には文化祭実行委員会の重役を担っていただきました。関係された皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、本年（2023 年）5 月 8 日以降、新型コロナ感染症は現在の感染症法上の「新型インフルエンザ等感染症」から 5 類感染症となる予定です。これに合わせて、長崎学習センターでも対応を検討しているところです。長崎学習センターには高齢の学生の方も多く所属されているので気が抜けません。基本的には自己防衛以外ないので、感染しやすい方への注意喚起を中心に対応を行う予定にしています。

新型コロナ感染症の 5 類への変更に伴い、授業形態もほぼ新型コロナ感染症流行前の状態に戻ります。ただ、単位認定試験は Web 単位認定試験のままです。また、新型コロナ感染症の流行中に何かと便利であることが分かった Zoom などの Online Tool は今後も活用されると思います。特に、長崎県では、学習センターへのアクセスが必ずしも良くない地域や離島・遠隔地などアクセスに時間と費用が掛かる地域が多くあります。そのような地域の方とは Online でやり取りをする機会が増えると思います。長崎同窓会には立派な Online 設備が導入されていますので活用されることを期待します。

ところで、長崎学習センターではこれから卒業研究に力を入れていく予定にしています。そのため、6 月に卒業研究の説明会を実施することにしました。長崎同窓会では、例年 2 月ごろに実施していただいていた論文発表会を、卒業研究説明会に合わせて実施していただくことになりました。卒業研究は、大学でしか味合うことのできない学習のプロセスです。多くの方にその醍醐味を味わっていただければと考えています。一度卒業された方もぜひチャレンジしてみてください。卒業研究の説明会および論文発表会は Online で実施される予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。



三回の文化祭を振り返る

長崎同窓会　　峰　昭子

「文化祭」の開催は、2008 年長崎同窓会四代会長・石橋逕司さんが、同窓会連合会総会へ出席された折、文化祭開催についての事例を学び持ち帰り、同窓会が中心となり、学習センターと各サークルに開催に向けての協力を呼び掛けたことからスタートしました。

「第 1 回文化祭」～近代日本の夜明けは長崎から～　は、学習センターが中心となり、同窓会・各サークル代表 20 名の実行委員会が発足、開催に向けて話し合いを重ね、2010 年 10 月 10 日（日）に開催された。2010 年、大河ドラマ「龍馬伝」が放映されたことで、長崎は龍馬ブーム。公開講演、講師・原田博二先生による「龍馬と長崎―龍馬と交流のあった人々―」へは、学校内外から多くの申し込みがあり大盛況だった。学生による多彩な作品展示、長崎大学落研の落語、喫茶コーナーでは手作りのぜんざいが振る舞われ、多くの方の暫し憩いの場となりました。

「第 2 回文化祭」～近代日本の夜明けは長崎から part 2 ～　は、同窓会、各サークル代表者 20 名で実行委員会が発足し、2016 年 10 月 9 日（日）開催。オープニングは「笑いヨガ」。公開講演は、東條センター長（当時）による「三菱財閥の形成と長崎」。展示会場は放送大学附属図書館所有「ちりめん本コレクション・国際色ゆたかな日本昔噺集」、各サークルから活動紹介、会員の作品等が展示、長崎大学附属図書館では「幕末・明治期日本古写真コレクション」が展示された。
マナピーも登場、本部からは撮影カメラが入り当日の様子は後日放送大学 HP で紹介されました。

「第 3 回文化祭」～新しい学びが今、始まる！～は、2022 年 10 月 30（日）は会場とオンライン併用ハイブリット式での開催。オープニングは健康学習サークルの「健康体操」。地域からの参加もあり活気に溢れた。公開講演「写真で振り返る港町長崎の歴史～幕末・明治・大正・昭和～」長崎外国語大学長・姫野順一先生は NHK ブラタモリへの出演もあり知名度抜群、学校内外から多くの方が聴講された。午後の部は長崎大学落研の落語からスタート。パネルディスカッションは初めての試みだったが、同総会が主催してきた「卒業研究・修士論文発表会」発表者の方から、パネリストを選考させていただいた。文化祭当日は、ファシリテーター山下所長の構成・進行の中、パネリスト 4 人はそれぞれに放送大学での学び、今後の抱負などについて話された。

実行委員を 3 回経験して、開催を重ねるごとにパワーアップしていくことを実感しています。5 年後に予定されている「第 4 回文化祭」開催時には、多くの方に関わっていただき、「文化祭」をより一層愉しんでいただきたいと願っています。

それぞれの学び方、生き方を、語り合えるいい機会となることでしょう。

オープニング「健康学習サークルによる健康体操」

「パネルディスカッション」

パネルディスカッションに参加して

パネリスト　土橋 晋作

第３回文化祭のパネルディスカッション「新しい学びが今、はじまる！」に参加しました。コロナ禍の３年間、自宅で学習している人たちにエールを送ることで何かの励みになればとの思いで、このパネルディスカッションが企画されたと伺いました。長崎学習センター所長の山下敬彦先生のファシリテーションにより、放送大学で学んだ経験をベースに、「新しい学び」についてフロアの皆様と楽しく議論できました。山下先生に厚く御礼申し上げます。

パネラは、長崎同窓会の現会長の高潮昇様、前会長の峰昭子様、臨床心理士（公認心理士）の佐藤紀代子様と私の４名でした。高潮様は、「諦めないクセ」を持ち続けることで、卒業研究を履修し、学士（教養）を取得されました。その後、大学院（社会経営科学プログラム）の選科履修生として学びを深めておられましたが、このたび全科履修生として新たな学びに挑戦されています。峰様も卒業研究を履修し、学士（教養）を取得されました。これまでの充実した学びを現在も継続されており、「人生 100 年時代」の生涯学習を見事に実践しておられます。佐藤様は、大学院（臨床心理学プログラム）を修了し、臨床心理士（公認心理士）の資格を取得されました。現在、心理カウンセラーとして、多岐にわたって活躍されています。私も、科目群履修認証（放送大学エキスパート）取得を目標にしながら、細やかな学びを継続していることを申し述べました。

このように、パネラ４名の学びの内容・方法はそれぞれ異なっておりますが、「継続した学び」を推進している点において、共通するところがあるように思えました。見方を変えると、「継続した学び」にも多様性があることが示されたことになるのかもしれません。放送大学は、この「多様性のある学び」に応えてくれる、貴重な「学びの場」になっているのだと思いました。パネルディスカッションに参加し、私自身とても良い勉強になりました。

末筆ながら、放送大学長崎学習センターのみなさま、そして放送大学長崎同窓会のみなさまに感謝いたします。貴重な機会を賜り、まことにありがとうございました。

令和４年度活動紹介①「第３回文化祭」

令和４年１０月３０日（日）放送大学長崎学習センター開設３０周年記念行事の一環として「第３回文化祭」を開催しました。新型コロナウイルスの感染禍のなか、同窓会、各サークルの代表者で実行委員会を組織し 11 回の会議を重ね、しかも今回はハイブリット開催（会場と Zoom の併用）で現役学生、卒業生をはじめ多くの一般市民の方に参加いただきました。

高潮実行委員長

山下所長

長崎外国語大学学長 姫野順一先生　講演（写真に見る港町長崎の歴史）

鶴屋わく珍「ん回し」　長崎大学落語研究会　麗し亭千春「元犬」

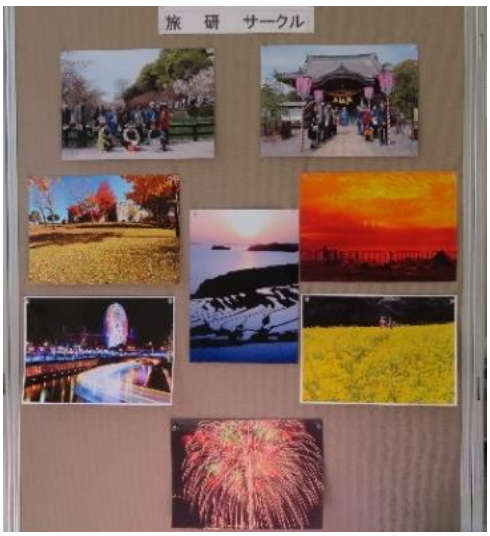
長崎の古写真（長崎大学付属図書館所蔵）

ちりめん本コレクション（放送大学付属図書館所蔵）

同窓会活動資料と役員個人作品

学友会

旅行研究サークル



パソコンサークル

学生、同窓会員の個人作品

俳句クラブ

心理研究会

馬場和男さんの作品

１１回にわたる「文化祭実行委員会」の会議の様子

まなぴー　お疲れ様

大盛会に終わって、ほっと笑顔の実行委員と学習センターの皆さん

令和４年度活動紹介②「講演＆ミニライブ（堀内伊吹先生）」

堀内先生から次のようなメッセージと共に、心癒やされる楽しいひとときを過ごしました。

「音楽、その癒しのチカラについて」

日本では、まだそれほど馴染みがなかった音楽療法。その日本音楽療法学会の初代会長を務められ、生涯現役のドクターだった日野原重明先生は、「昔は、音楽は私の趣味の一つであると思っていたが、今では音楽は、病むものへの癒しの技として、大切な役を演じていることを痛感する」と語っています。それは、今から 30 年ほど前のことでした。

情報化とともに時代も変わり、今では当たり前に語られえるようになった音楽療法ですが、西洋音楽を土台としたこの療法について、日本人には日本人のための音楽療法があるのではないだろうかという指摘もなされています。私自身のライフワークとして取り組んできた病院等でのロビーコンサートでの気づきや、そして日本人の感性に直接働きかけるような『音楽の癒しのチカラ』につい、事例紹介と、実際の演奏も交え、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

音楽、その癒しのチカラについて

①難聴児の言語獲得に役立つ音楽療法

②お酒に音楽を聴かせると美味しくなる？（黒糖焼酎　れんと）

③療法的音楽活動（キュア、ケア、シェア）と日本人のための音楽療法（もののね）

④記憶がよみがえる思い出のメロディー

⑤癒しのミニライブ（スイングジャズ、長崎の唄、ほか）

賛助出演：小川勉氏（クラリネット）

サークル活動紹介（俳句クラブ）

会員俳句欄

長崎学習センター俳句クラブで活動している同窓会会員の最近の句を六句ずつ掲載します。（アイウエオ順）

田浦幸昌吟

物差しで雪の深さを計りけり
長崎の冬枯れ気配なかりけり
廃屋の屋根より落つる雪の音
早春や歩く運動伸ばしけり
老夫婦互いを鬼に豆撒きし
十年に一度の寒さ水止まる

橋　勇吟

冬枯れにお腹空いたと小鳥鳴き
八重咲の庭が賑わう寒椿
冬牡丹試行錯誤でやっと咲き
立春や晴れの日続く二三日
積雪や今日は一日家籠り
木枯らしや見慣れぬ鳥が枝の上

溝口健治吟

冬枯れや街路樹鳥の声寂し
雪の朝手すり掃除の横歩き
朝霜のつーと雫流れ落つ
サクサクと足音聞こゆ春立てり
春節祭影寄り添いて川面揺る
雪晴れのチェーンガリガリバス通り

森　百合子吟

冬枯れの岸辺飛び交う小鳥二羽
初買いは長き列さえ楽しけれ
亡き友のいそうな雲よ初御空
立春や電車の音も軽やかに
寒の雨のら猫じっと動かざり
酷寒に戦の国を憂ふかな

令和５年度総会資料

第１号議案　令和４年度　放送大学長崎同総会活動報告

月　日	活 動 内 容	参加人員	概　　要
2022年 4月3日	学位記授与式、入学式	2名	・会長祝辞　・受付（新入会員0名）
4月6日	第1回役員会	10名	・総会準備、会報誌「琴の海22号」編集会議（5）
4月7日	第3回文化祭実行委員会（第３回）へ出席	７名	・各サークル、学習センターとの準備会議
4月22日	令和4年度総会	14名	・総会　第１会議室
5月11日	第2回役員会	9名	・会報誌「琴の海22号」240部作成　130部発送
5月13日	第3回文化祭実行委員会（第４回）へ出席	6名	・各サークル、学習センターとの準備会議
5月21日	「第２５回　放送大学同窓会連合会通常総会」書面総会　高潮会長リモートで参加		
6月1日	第3回役員会	7名	・文化祭の準備
6月8日	旅行研究サークルとコラボ企画	17名	・水辺の森公園散策
6月10日	第3回文化祭実行委員会（第５回）へ出席	6名	・各サークル、学習センターとの準備会議
7月6日	第4回役員会	8名	・文化祭の準備
7月8日	第3回文化祭実行委員会（第6回）へ出席	7名	・各サークル、学習センターとの準備会議
8月3日	第5回役員会（中止）		・コロナ感染拡大で中止
8月5日	第3回文化祭実行委員会（第7回）へ出席	6名	・各サークル、学習センターとの準備会議
9月7日	第5回役員会	8名	・文化祭の準備　・論文発表会の準備
9月9日	第3回文化祭実行委員会（第8回）へ出席	7名	・各サークル、学習センターとの準備会議
9月25日	学位記授与式	2名	・会長祝辞　・受付（新入会員0名）
9月30日	第3回文化祭実行委員会（第9回）へ出席	6名	・各サークル、学習センターとの準備会議
10月5日	第6回役員会	8名	・文化祭の準備　・論文発表会の準備
10月14日	第3回文化祭実行委員会（第10回）へ出席	5名	・準備と確認、リハーサル
10月21日	第3回文化祭実行委員会（第11回）へ出席	7名	・準備と確認、リハーサル
10月28日～29日	文化祭会場の準備	7名	・会場設営とZoom運用確認
10月30日	文化祭開催日	134名	・来訪者：会場120名、Zoom14名
10月30日、11月1日～2日	文化祭会場の片付け	4名	・作品・設営備品の撤収、教室の現状復旧
11月2日	第7回役員会（メールによる文書会議）	11名	・文化祭の報告　・講演会の準備
11月9日	旅行研究サークルとコラボ企画	12名	・二十六聖人記念館（西坂町）～本連寺（筑後町）
11月11日	第3回文化祭実行委員会（第12回）へ出席	6名	・文化祭の振り返り（実績確認と反省、次回に向けて）
12月7日	第8回役員会	8名	・文化祭の報告 ・講演会の準備（2月18日：堀内伊吹先生） ・論文発表会は令和5年6月11日に学習センターと共催
2023年1月11日	第9回役員会	7名	・講演会広報活動：案内状の郵送準備 （案内状、チラシ、出欠・近況報告用はがき） ・会報誌「琴の海23号」編集会議（1）
2月1日	第10回役員会	7名	・講演会（2月18日）の準備（役割分担など） ・会報誌「琴の海23号」編集会議（2） ・同窓会連合会助成金の事業報告書作成 ・同窓会総会（4月21日）の準備
2月18日	講演＆ミニライブ（堀内伊吹先生）	31名	・テーマ「音楽、その癒しのチカラについて」
3月1日	第11回役員会	7名	・同窓会総会（4月21日）の準備 ・会報誌「琴の海23号」編集会議（3） ・来期の役員体制について ・九州・沖縄地区交流会の開催について（9月2日～3日） ・論文発表会の手法と人選について
3月5日	旅行研究サークルとコラボ企画	12名	・長崎新幹線を利用して、武雄の史跡巡り
年間通して「長崎同窓会ホームページ」リニューアル作業			

第４号議案　令和５年度　放送大学　長崎同窓会活動計画（案）

卒業生も、現役学生も含めた放送大学に所縁あるすべての方々が、同窓会活動を通じて、楽しく活き活きと交流し、生涯学習で自己研鑽に励み、社会的貢献などを基本とし、多様で個性的な生き方を尊重し、明日の希望に満ちた人生を謳歌するため、共に同窓会活動に取り組むことを目指しましょう。

１、［連携の強化］次の行事に参加しよう
　★　学位記の授与・入学式、懇談会出席　★サークル活動への参加
　★　ゼミへの参加　★　客員教授による面接授業・公開講座に参加
２、［琴の海］を発行し、会員の意見を反映させよう。
３、［講演会］、［論文研究発表会］の開催を同窓会の主要事業と位置付け、会員の取り組む姿勢を高揚させよう。
４、［会員増加］　積極的な活動により、魅力的な同窓会を目指し、入会する会員を増やそう。
５、［放送大学同窓会連合会］、［九州地区同窓会］との交流を進めよう。

令和５年度活動計画

月	活動計画概要
2023年 4	■学位記授与式・入学式　■令和5年度・総会　■役員会 ■会報誌「琴の海23号」編集
5	■役員会　■放送大学同窓会連合会「第26回総会」出席　■論文発表会の事前準備 ■会報誌「琴の海23号」発行
6	■役員会　■「HP・長崎同窓会」編集会議　■論文発表会
7	■単位認定試験
8	■役員会　■九州地区交流会の事前準備
9	■役員会　■九州地区交流会（長崎開催）　■講演会の事前準備
10	■学位記授与式・入学式　■役員会（前期の反省・後期の活動の確認） ■講演会
11	■役員会　■サークル（健康学習・旅研）とのコラボ（地域研究）
12	■役員会　■会報誌「琴の海２4号」編集会議
2024年 1	■単位認定試験
2	■役員会　■サークル（健康学習・旅研）とのコラボ（勉強会）
3	■役員会　■令和6年度総会準備　■会報誌「琴の海24号」編集会議

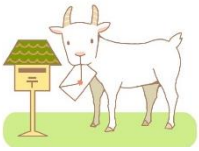
「新会員の紹介」　ご卒業おめでとうございます。

令和４年度後期卒業

馬場 桂子　さま

お　た　よ　り

※氏名五十音順



市川　徳夫：コロナ禍以来、センターには３年間ごぶさたです。道も忘れそうです。忘れない様に教材で「認知症」の勉強中です。運がよければ５回目の卒業です。教材を視聴中は、よく理解できていますが、終わった途端に記憶が消えてしまいます。日常は大村駅近くの交差点で毎朝登校する小学生(140 人)中学生(10 人)高校生(30 人)の交通指導をしています(平成１２年から)。　昼間は屋外の植木の剪定や家庭菜園の手入れ、掃除に毎日追いかけられています(逃げるのが大変です)。　ランタロウ(愛犬)が昨年まで散歩をしていましたが、昨年他界したにもかかわらず、外で私の後に居るような錯覚で振り返ると誰も居ません。人生１００年時代と言われる昨今ですがボチボチお迎えにくるかもしれません。皆さんはお元気で！！

市成　譲二：健康ウォーキング（@7,000 歩以上程度）を始めて１６年目！△１３kg／１年目！体重６０kg、血圧１２０／７０、を維持。“無理せず”をモットーに目標達／未達気にせず！が続けられたツボの様です。付帯効果に”医者イラズ“があります。
安全に！健康に！の毎日です。理系の本業の本、文系の本“社会と経済(2004)”、現役に負けない様に！と心しております。(笑)

稲田　耕一：＜学び舎に思う＞　家族を支える仕事をしている人がいる。学びを活用して富を得ている人がいる。健康と柔らかい学びへの欲求があるだろうか？などと思っている間に後期高齢者となり。それこそ幸福な人生が続けば良いと思う。人を助け、感謝を忘れず、努力する人達。『しまった、あの頃、放送大学で学士・修士の学歴を取っておけば良かった』と言う人もいる。４６億歳の地球の上で叫ぶ！！！
“学びは人と地球を救う”

岩崎　信子：体調不良で出席できません。(堀内先生の講演＆ミニライブに)

永川　元子：「音楽、その癒しのチカラについて」のご講演、興味深く楽しみにしておりましたが、体調悪く参加できなくなり残念です。次回の健康な時には、ぜひ参加したいと、今回はあきらめることに致します。皆様方によろしく。

岡野　道子：昨年暮から今年は家族の事に振り回され、東京との往復便です。東では息子達の生活支援、西に戻ってくれば夫の療養支援。まだ誰かの為に役に立っていると勝手に思って過ごしています。今年の目標の一つに家族の健康とボケ防止に毎日の食事を記録しようと決め、今の所は実行できています。「琴の海」に掲載された頃まで続くかは不明ですが。

柿山　春美：早いもので、たぶん私が卒業してから１０年以上になります。その間、大学からのお便りが届きなつかしく思っています。春に念願だった海外旅行を計画してワクワクした毎日を過ごしています。足・腰・目・頭と、年々確実に低下しているようです。元気なうちに、行動あるのみ。

片岡　慶子：仕事優先の生活が続いていますが、身体のメンテナンスで、時々病院に通院しています。皆様お互いに健康に気をつけて、今年もがんばりましょう。

古瀬　恵美子：退職後暫く仕事から離れていましたが、パートとして週３回仕事復帰しました。無理が効かない年齢になりましたが、若い人達に生気をもらって頑張っています。放送大学に行きながら資格を得た事、私自身の誇りでもあり自信にもなっています。今は友達と一緒に書道をする口実に遊んだりしています。

小森　信子：現在９８歳で、娘のいる神奈川県の茅ヶ崎にいます。そこで元気に過ごしています。

小吉　隆　：現在８５歳。元気にしております。自然薯のプランター栽培の研究は継続中。中々完結に至りません。役員の皆様方のご活躍に感謝しています。

佐藤　一誠：新たな年を迎えましたが今年もコロナとの闘いが続きそうですね。高齢者（８３歳）の一人として、５回目のワクチン接種を受けました。コロナに負けない体力を維持しなくてはなりません。朝、昼、晩と３食をしっかり食べて、日課のウォーキング5,000歩以上を心掛けて生きております。仕事と学生生活を頑張っていたころが脳裏をかすめます。

土岐　滝三：教養学部の３つめ「自然と環境コース」を学習しています。相変わらず、仕事と両立することの難しさを感じますが、将来、海外旅行に行く日が来ることを夢見て、英語なども学んでいます。

土橋　晋作：昨年１１月にコロナになってしまい、大変でしたが、免疫をつけることができてよかったです。今年は、科目群履修認証の１つである「異文化コミュニケーションプラン」を取得したいと思います。

飛永　まさみ：拙著「行って見て聴いたことを・・・伝えたい」（文芸社出版、ペンネーム水島瞳）が、２０２１年度長崎県文芸協会賞を受賞いたしました。西九州文学会会員としても同人誌に水島瞳名で書き続けております。誌をご希望の方は、お申し出くださいませ。E-mail：masatobi@mxc.cncm.ne.jp

橋本　純子：日頃の同窓会運営へのご尽力に感謝申し上げます。多死社会といわれるようになった現在の当事者に突入しました。日々、出来るだけ他者にご迷惑をお掛け

しないためには、努力で健康寿命をのばすことだと考えています。それには最期まで生きがいを見失わないようにするには・・・と考えております。心と体の維持はとてもむずかしいです。

橋本　義基：五月で８２歳になります。コロナやウクライナ情勢を見る時、私たちは今、世界大変革のまっただ中にいるにちがいありません。今少し、生きてみたいとの思いが強くなっています。放送大学も４月に再入学するつもりです。

本田　徳光：御世話、御苦労様です。又、大変有り難う御座居ます。

松田　容子：いつも、御案内ありがとうございます。コロナでなかなか参加できないでおります。落ち着いたら又、大学で別のコースを学びたいと思っております。会員の皆様方、どうぞ御自愛下さいませ。

三木　泰雄：正月に、はるか昔、学生時代に毎週のように登った金比羅山に、久しぶりに登ってみました。まだ体力は十分にあると思っていましたが、最後の登りはきつかったです。それでも、山頂でおまいりして、長崎の街の景色を一望して、すがすがしい気持になりました。今年もいい年になればよいですね。単位取得に頭がついていくことを願っています。

村里　保亮：コロナ感染状況やインフルエンザ流行等をふまえ、特に体調を崩さないよう意識しながら過ごしています。また、現在は資格の取得に向けて学習を進めています。

山口　栄子：夫婦で色々な野菜を栽培し、毎日ララコープへ出店しています。忙しいですが充実した日々を送っています。

吉田　和正：教養学部選科履修生、大学院修士選科生として勉強続けています。最近は体調不良になることが多いので、学習センターには行かず、自宅でＢＳ放送などで学び続けています。

渡邉　幸雄：２月で８５歳を迎えました。お陰様で毎日元気に過ごしております。平成９年に妻をなくして以来一人暮らしです。バランスよく食べることを心掛けています。若い方々（６０～７０代）とゴルフやマージャンを楽しませて頂いております。

訃　報

謹んでお悔やみ申し上げます。心よりご冥福をお祈りいたします。

- 鍵原 政八　さま
- 水頭 雄七　さま
- 馬場 和男　さま

初代学習センター
（現特別養護老人ホーム真和荘）

２代目学習センター
（現長崎大学総合教育研究棟）

現在の学習センター
（長崎大学附属図書館との合築棟）

編集後記

令和４年度は、放送大学長崎学習センター開設 30 周年を迎え、６年ぶりに「第３回文化祭」を開催することができました。同窓会、各サークルや在学生のみなさんが、企画・運営等を担当し「長崎学習センターのチームワーク力」で楽しく素晴らしい文化祭ができました。コロナ禍でしたが、広報活動の効果もあり 120 名の来場者と Zoom 参加者 14 名の来場がありました。

編集委員一同

■ 平成 27（2015）年に、HP を開設しました。
https://hngc-dosokai.jimdo.com/　放送大学長崎同窓会　検索

長崎同窓会会報誌	『琴の海第 ２３号』　２０２３年(令和５年)５月１１日　発行
発行者	放送大学長崎同窓会
発行責任者	高潮　昇
編集委員	田浦　幸勝　中嶋　幾美　峰　昭子　和田　貞雄 佐藤　まゆみ　田中　富子　林　愛華　岡野　道子 溝上　慶子　原口　俊彦